

○ICT活用で確かな学力をつけよう（実践報告）

- 1** 学年・教科 3年以上・国語
- 2** 単元名 書写
- 3** 実践者（所属） 小松原和人（東小田小学校）
- 4** 活動を始める前に

（1）準備するもの

プロジェクター
実物投影機
スクリーン

（2）ICT機器やメディアの活用のねらい

プロジェクターと実物投影機で、書写で教師が書く手元を実際に見て、学ぶ



5 活動の流れ

時間	学習内容・指導上の留意点	児童の活動（利用メディア）
1	筆遣いをスクリーンで拡大投影して、児童に見せながら、文字の指導をする。 ・文字の形だけでなく、筆を立てる、寝かすといった動きもよく見えるので、注意してみるようにさせる。	スクリーンを見ながら、筆遣いを学ぶ。 実物投影機、プロジェクター、スクリーン

6 取り組み後の子ども達の変容や成果

字の形だけでなく、筆の持ち方や筆運びも投影できるので、筆を斜めに寝かして書いていた子も、直すことができていました。



7 応用できます！

書写では、投影した文字をスクリーン上で文字の形について指導ができます。スクリーンによってはペンで書き込んでも消せるものもあるので、実際にペンで重要ポイントを書き込むことも効果的です。

また子どもに見えにくい手元を見せることができるので、高学年の家庭科で運針の仕方、包丁の使い方など拡大して見せることができます。

4年の算数に「角度」の学習があります。分度器の読み方も拡大して指導すると効果的です。